

授業科目名： 障害者教育総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田中 裕一 担当形態： 単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育の基礎理論に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育制度における特別支援学校の機能および役割を理解する。 ・特別支援教育の歴史および思想を理解する。 ・特別支援教育の理念・目標について理解する。 ・特別支援学校・特別支援学級・通級指導教室での教育について理解する。 			
授業の概要			
<p>特別支援教育の理念及び障害のある幼児、児童又は生徒の学校教育の歴史や役割において特別支援教育がどのように関連付けられたかを明らかにする。さらに、それらと特別支援学校の制度との関係を特別支援教育の思想史を踏まえて理解する。また、現代の社会状況を理解するなかで特別支援学校の教育に関して、社会的、制度的及び経営的事項に対しての基礎的知識を身に付ける。さらに、特別支援教育を構成する教育関係法規及び特別支援学校教育要領・学習指導要領を理解する。</p>			
授業計画 (105分×13回)			
<p>第1回：特別支援教育とは（これまでの歴史・意義・理念・目標、インクルーシブ教育システム、特別支援学校・特別支援学級・通級指導教室、特別支援教育コーディネーター）</p> <p>第2回：特別支援教育制度における特別支援学校が有する機能・役割（センター的機能）</p> <p>第3回：各障害種（視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱）の教育の歴史および思想</p> <p>第4回：各障害種（自閉症・LD・ADHD）教育の歴史および思想</p> <p>第5回：インクルーシブ教育システムの理念を踏まえた特別支援教育</p> <p>第6回：障害者施策を巡る動向の変化に関する理解</p> <p>第7回：各教育課程に応じた自立活動の位置づけと理念、教育での実際</p> <p>第8回：特別支援学校での教育①：特別支援学校の地域における位置づけ、種類、教育の実際</p> <p>第9回：特別支援学校での教育②：小・中・高等部における教育の実際、地域の小中学校等との連携</p> <p>第10回：特別支援学級での教育①：特別支援学級の現状、教育の実際</p> <p>第11回：特別支援学級での教育②：通常の学級と特別支援学級との交流及び共同教育の実際</p> <p>第12回：小・中学校での特別支援教育：特別支援学校との連携、通級指導教室・教育支援センター・地域の支援機関との連携</p> <p>第13回：特別支援教育に関わる課題</p>			
テキスト			
<p>特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）（H30.3）</p> <p>特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）（H30.3）</p> <p>特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（H30.3）</p>			
参考書・参考資料等			
<p>特別支援学校学習指導要領解説 総則編（高等部）（H31.2）</p> <p>特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（高等部）（H31.2）</p> <p>特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（高等部）（H31.2）</p> <p>新版 特別支援学級と通級による指導ハンドブック（田中裕一監修、東洋館出版社R元.8）</p> <p>その他参考資料については、必要に応じて、講義内で配布、紹介する</p>			
学生に対する評価			
小レポート（期間中に数回提出）30%、授業における振り返り20%、総合レポート50%			

授業科目名： 知的障害者の心理・ 生理・病理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 瀬戸山 悠、高田 哲 担当形態： オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に 関する科目（中心領域：知）		
授業のテーマ及び到達目標 (授業テーマ) 特別支援教育の教員として必要な知的障害に関する基礎知識を理解し、発達と生活上の問題 に対する支援方法について学ぶ。 (到達目標) ・知的障害者の基礎知識、心理、生理、病理について理解する。 ・知的障害者の発達と生活上の問題に対する留意点と支援について理解する。			
授業の概要 知的障害のある幼児、児童又は生徒の知的障害の要因として、知的発達の遅れや困難さの要 因となる病理面や併存症・合併症と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について 理解する。また、学校現場における検査や観察を通して知的障害のある幼児、児童又は生徒一 人一人の知的障害の状態や適応行動の困難さ及び認知の特性を把握することを理解する。さら に家庭や医療機関との連携における課題の共有や連携の内容や方法の重要性についても理解す る。			
授業計画（105分×13回） 第1回：ガイダンス・障害とは何か・発達障害と知的障害の違い（瀬戸山悠） 第2回：知的障害の理解① 心理学的基礎（瀬戸山悠） 第3回：知的障害の理解② 病理学的基礎（高田哲） 第4回：子どもの成長と発達（定型発達）（瀬戸山悠） 第5回：知的障害の知的発達・機能の発達と評価（瀬戸山悠） 第6回：知的障害者の感覚機能（瀬戸山悠） 第7回：知的障害者の学習（瀬戸山悠） 第8回：知的障害者の注意・記憶（瀬戸山悠） 第9回：知的障害者の運動機能（瀬戸山悠） 第10回：知的障害者の言語・コミュニケーション（瀬戸山悠） 第11回：知的障害者の健康問題① てんかんの理解と支援（高田哲） 第12回：知的障害者の健康問題② ダウン症の理解と支援（高田哲） 第13回：知的障害者の支援（地域連携・福祉サービス、学校における多職種連携）（瀬戸山悠）			
テキスト 適宜資料配布			
参考書・参考資料等 知的障害児の心理・生理・病理 第2版、勝二博亮編著、北大路書房。 境界知能の子どもたち、宮口幸治、SB新書。			
学生に対する評価 レポート70%、コミュニケーションペーパー30%			

授業科目名： 肢体不自由者の心理・ 生理・病理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山本 裕子、高田 哲 担当形態： オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に 関する科目（中心領域：肢）		
授業のテーマ及び到達目標 (授業テーマ) 特別支援教育の教員として必要な肢体不自由に関する基礎知識を理解し、発達と生活上の問題 に対する支援方法について学ぶ。 (到達目標) ・肢体不自由者の基礎知識、心理、生理、病理について理解する。 ・肢体不自由者の発達と生活上の問題に対する留意点と支援について理解する。			
授業の概要 肢体不自由のある幼児、児童又は生徒の起因疾患（脳原性疾患、脊髄疾患、抹消神経疾患） となる病理面や併存症・合併症と心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について理 解する。また、学校現場における検査や観察を通して脳性まひのある幼児、児童又は生徒一人 一人の肢体不自由の状態や感覚機能の発達、知能の発達及び認知の特性を把握することを理解 する。さらに家庭や医療機関との連携における課題の共有や連携の内容や方法の重要性につい ても理解する。			
授業計画（105分×13回） 第1回：ガイダンス・肢体不自由の理解、障がい者の権利について（山本裕子） 第2回：肢体不自由者の生理、病理特性①（骨筋・神経系と運動の生理学）（高田哲） 第3回：肢体不自由者の生理、病理特性②（脳性疾患・脊椎脊髄疾患・筋原性疾患・骨系統疾患・ 代謝性疾患など）（高田哲） 第4回：呼吸機能障害に関する基礎知識と支援①（重症心身障害児の呼吸障害とケア）（山本裕子） 第5回：呼吸機能障害に関する基礎知識と支援②（気管切開・人工呼吸療法とケア）（山本裕子） 第6回：食べる機能障害の基礎知識と支援（山本裕子） 第7回：排泄機能障害の基礎知識と支援（山本裕子） 第8回：特別支援学校における医療的ケア（山本裕子） 第9回：肢体不自由の心理特性①（発達とアセスメント）（山本裕子） 第10回：肢体不自由の心理特性②（発達とアセスメント）（山本裕子） 第11回：肢体不自由者の自立活動・療育（山本裕子） 第12回：肢体不自由者の多職種連携、福祉制度の活用（山本裕子） 第13回：肢体不自由者の社会生活、地域交流（山本裕子）			
テキスト 適宜資料配布する			
参考書・参考資料等 よくわかる肢体不自由教育，安藤隆男・藤田継道（編著），ミネルヴァ書房			
学生に対する評価 レポート70%、コミュニケーションペーパー30%			

授業科目名： 病弱者の心理・生理・ 病理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山本 裕子 担当形態： 単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に 関する科目（中心領域：病）		
授業のテーマ及び到達目標 ・病弱者の基礎知識、心理、生理、病理について理解する。 ・病弱者の生活上の問題に対する留意点と支援方法を修得する。			
授業の概要 病弱（身体虚弱者を含む）幼児、児童又は生徒の病気等に関して、心身の不調な状態が続く 背景となる病理面や心理面及び生理面の特徴並びにそれらの相互作用について理解する。また、 学校現場における検査や観察、医療機関からの情報提供を通して病気や障害の状態、社会性の 発達及び認知の特性を把握することを理解する。さらに、家庭や学校間、医療機関や福祉及び 保健機関との連携における課題の共有や連携の内容や方法の重要性についても理解する。			
授業計画（105分×13回） 第1回：ガイダンス・病気の子どもの理解と子どもの権利 第2回：病気と障害①小児がん・小児の慢性疾患 第3回：病気と障害②小児の慢性疾患、学校生活医師記載「生活管理表」 第4回：病気と障害③神経系疾患 第5回：病気と障害④心身症、不登校、発達障害 第6回：発達段階における慢性疾患の心理特性、日常生活管理、プレパレーション① 第7回：発達段階における慢性疾患の心理特性、日常生活管理、プレパレーション② 第8回：子どもの緩和ケア 第9回：子どもの救急救命、心肺蘇生法の基礎知識 第10回：心肺蘇生法（演習） 第11回：アナフィラキシー時の学校での対応、エピペンの使い方（演習） 第12回：医療的ケアを必要とする在宅療養 第13回：学校における医療的ケア、家庭・学校・医療との連携 定期試験			
テキスト 特別支援教育に生かす病弱児の生理・病理・心理，小野次郎・西牧謙吾・榊原洋一編著（ミネル ヴァ書房）			
参考書・参考資料等 病気の子どもの教育入門 改訂増補版，全国病弱教育研究会編（クリエイツかもがわ）			
学生に対する評価 筆記試験50%、発表30%、リフレクションペーパー20%			

授業科目名： 知的障害教育 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 上野 昌稔、田中 裕一 担当形態： オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：知）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>知的障害教育総論をベースとして、知的障害の状態や特性及び心身の発達の段階等並びに学習の進捗を踏まえ、各教科等の教育の内容を選定し、組織し、それらに必要な授業時数を定めて編成することの意義を理解することをねらいとする。</p> <p>知的障害の状態や学習上の特性を踏まえ、各教科等の目標を達成させるために、各教科等別の指導のほか、多様な指導の形態があることを理解し、効果的な指導の形態を選択し組織することの意義について理解することをねらいとする。</p> <p>自立活動の指導における個別の指導計画の作成と内容の取扱いについて理解するとともに、教科と自立活動の目標設定に至る手続の違いを手続きの違いを理解することをねらいとする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>特別支援学校教育要領・学習指導要領を基準として特別支援学校（知的障害）において編成される教育課程の意義を理解するため、生きる力に加え障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する力を育むことを理解する。また、教育課程の編成においては知的障害の状態等を踏まえ、各教科等の教育内容を選定し組織し、必要な授業時数を定めることや効果的な指導のため、個別の指導計画を作成する必要性を理解する。さらに、自立活動における個別の指導計画の取り扱いや教科と自立活動の目標設定に至る手続きの違いを理解する。個別の指導計画については、カリキュラム・マネジメントの側面として、実施状況の評価を行い改善に繋げる必要性について理解する。</p>			
<p>授業計画（105分×7回）</p> <p>第1回：知的障害のある子どもに対する指導①（知的障害の特性に合った指導法）（上野昌稔） 第2回：知的障害のある子どもに対する指導②（教科・教科等を合わせた指導）（上野昌稔） 第3回：個別の指導計画作成の手立て①（各教科の年間指導計画を踏まえた個別の指導計画の作成）（田中裕一） 第4回：知的障害のある子どもに対する指導③（自立活動の指導）（田中裕一） 第5回：個別の指導計画作成の手立て②（自立活動の目標設定を踏まえた指導計画の作成）（田中裕一） 第6回：個別の指導計画作成の手立て③（目標設定と評価、PDCAサイクル活用の重要性）（田中裕一） 第7回：個別の指導計画作成のための実態把握（田中裕一）</p>			
<p>テキスト</p> <p>特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）（H30.3） 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（H30.3）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（高等部）（H31.2） 特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（高等部）（H31.2） その他参考資料については、必要に応じて、講義内で配布、紹介する</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>小レポート（期間中に数回提出）30%、授業における振り返り20%、総合レポート50%</p>			

授業科目名： 知的障害教育Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 上野 昌稔、田中 裕一 担当形態： オムニバス
科目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：知）		
授業のテーマ及び到達目標 自立活動の内容（6区部27項目）を理解し、自立活動の時間だけでなく、各教科等の授業においても自立活動の指導と関連付けて指導を行うことの意義を理解する。 知的障害の状態や特性及び心身の発達の段階を踏まえ、各教科等の指導の効果を高めるために必要なICT及び興味や関心に着目した教材・教具の活用について理解する。 自立活動の指導における個別の指導計画の作成と内容の取扱いについて理解するとともに、教科と自立活動の目標設定に至る手続の違いを理解する。			
授業の概要 知的障害のある幼児、児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について理解し、自立活動及び自立活動の指導と関連付けた具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。指導に当たっては、育成する資質・能力を明確にして日常生活や社会生活に結びついた具体的な活動場面を構成し、学習意欲を高める環境構成を行い、集団活動における役割遂行を目指す。さらに指導の効果を高めるためのICT機器の使用を図るとともにこれらの要素を活用した各教科等の学習指導案を作成し、指導を評価改善することの重要性を理解する。			
授業計画（105分×7回） 第1回：知的障害のある子どもに対する自立活動の指導①（健康の保持、身体の動き）（田中裕一） 第2回：知的障害のある子どもに対する自立活動の指導②（心理的な安定、人間関係の形成）（田中裕一） 第3回：知的障害のある子どもに対する自立活動の指導③（環境の把握、コミュニケーション）（田中裕一） 第4回：知的障害のある子どもに対する教科指導時における障害の特性の理解と指導・支援（上野昌稔） 第5回：知的障害のある子どもに対するICTや興味関心に着目した教材・教具の活用の理解と実際（上野昌稔） 第6回：知的障害のある子どもに対する授業設計と授業の実施（田中裕一） 第7回：知的障害のある子どもに対する授業評価、見直し（田中裕一）			
テキスト 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（H30.3）			
参考書・参考資料等 特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（高等部）（H31.2） その他参考資料については、必要に応じて、講義内で配布、紹介する			
学生に対する評価 小レポート（期間中に数回提出）30%、授業における振り返り20%、総合レポート50%			

授業科目名： 肢体不自由教育 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 上野 昌稔
			担当形態： 単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：肢）		
授業のテーマ及び到達目標 肢体不自由教育総論をベースとして、肢体不自由児の指導に関して、教育課程のポイント・障害特性を踏まえた教育の方法等の基礎知識の習得をねらいとする。 児童生徒の障害の重度重複化、多様化に対応した各教科等の教育内容の選定と自立活動との関連について理解し、個に応じた教育課程の編成するために必要となる個別の指導計画の作成についてその手立ての習得をねらいとする。 自立活動における個別の指導計画の取り扱いや教科等と自立活動の目標設定に至る手続きの違いを説明できる。			
授業の概要 特別支援学校教育要領・学習指導要領を基準として特別支援学校（肢体不自由）において編成される教育課程の意義を理解するため、生きる力に加え障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する力を育むことを理解する。また、教育課程の編成においては幼児、児童又は生徒の肢体不自由の状態や特性及び心身の発達の段階等並びに特別支援学校（肢体不自由）の教育実践に即し、各教科等の教育内容を選定・組織し、必要な授業時数を定めることや効果的な指導のため、個別の指導計画を作成する必要性を理解する。さらに、自立活動における個別の指導計画の取り扱いや教科等と自立活動の目標設定に至る手続きの違いを理解する。個別の指導計画については、カリキュラム・マネジメントの側面として、実施状況の評価を行い改善に繋げる必要性について理解する。			
授業計画（105分×7回） 第1回：肢体不自由児に対する指導①（自立活動の指導内容と指導形態） 第2回：肢体不自由児に対する指導②（教科指導における工夫と合理的配慮） 第3回：肢体不自由児に対する指導③（教科・教科等を合わせた指導） 第4回：実態把握に基づく教育課程の編成①（個に応じた教育内容の選定のポイント） 第5回：実態把握に基づく教育課程の編成②（教科等と自立活動との関連） 第6回：個別の指導計画作成の手立て①（自立活動の目標設定を踏まえた指導計画の作成） 第7回：個別の指導計画作成の手立て②（観点別目標設定と評価、PDCAサイクル活用の重要性）			
テキスト 特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）（H30.3） 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（H30.3） 手厚い支援を必要としている子どものための情報パッケージ「ぱれっと（PALETTE）」ー子どもが主体となる教育計画と実践をめざしてー（株）ジアース教育新社 ISBN978-4-86371-372-7 C 3037（H28.9）			
参考書・参考資料等 資料を提示配布する。			
学生に対する評価 提出物・授業への取り組み（30%）と定期試験にかわるレポート（70%）で総合的に評価する。			

授業科目名： 肢体不自由教育Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 上野 昌稔
			担当形態： 単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：肢）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>自立活動の内容（6 区部 27 項目）を理解し、自立活動の時間だけでなく、各教科等の授業においても自立活動の指導を取り入れることができる手立てを身に付ける。</p> <p>学習時の姿勢や認知の特性に応じた指導方法の工夫についての基礎知識を理解し、説明できる。</p> <p>ICT 活用、遠隔教育、ロボット支援等の教育技術について活用のための基礎知識を習得する。まとめとして、ワーク実践を通して、授業設計、実施、評価・改善に係る理解を深める。</p>			
授業の概要			
<p>肢体不自由のある幼児、児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について理解し、自立活動及び自立活動の指導と関連付けた具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。指導に当たっては、肢体不自由の状態や特性及び心身の発達の段階を踏まえ、思考力、判断力、表現力等の育成に必要な体験的な活動を通して基礎的な概念の形成を図り、各教科等を効率的に学習するために必要な姿勢や認知の特性について理解する。さらに、指導の効果を高めるため、身体の動きや意思の表出の状態に応じて、適切な補助具や補助的手段を工夫し、ICT 機器を活用した教材の作成・活用を理解する。これらの要素を活用した各教科等の学習指導案を作成し、指導を評価改善することの重要性を理解する。</p>			
授業計画（105 分×7 回）			
<p>第 1 回：肢体不自由教育における自立活動の指導①（健康の保持、身体の動き）</p> <p>第 2 回：肢体不自由教育における自立活動の指導②（心理的な安定、人間関係の形成）</p> <p>第 3 回：肢体不自由教育における自立活動の指導③（環境の把握、コミュニケーション）</p> <p>第 4 回：肢体不自由児の教科指導における姿勢及び認知特性の理解と指導・支援</p> <p>第 5 回：肢体不自由教育における ICT 活用、遠隔教育、ロボット支援の理解と実際</p> <p>第 6 回：肢体不自由教育における授業設計と授業の実施</p> <p>第 7 回：肢体不自由教育における授業の評価から改善まで</p>			
テキスト			
特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（H30.3）			
参考書・参考資料等			
資料を提示配布する。			
学生に対する評価			
提出物・授業への取り組み（30%）と定期試験にかわるレポート（70%）で総合的に評価する。			

授業科目名： 病弱教育 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 上野 昌稔、丹羽 登 担当形態： オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：病）		
授業のテーマ及び到達目標 病弱教育に関する法令を理解するとともに、病気の子どもの実態に応じた学習環境の整備や指導方法の工夫等を理解する。 ・入院中に学習することができる制度や手続きについて理解する。 ・病弱の特別支援学校における法令や教育課程編成方法、医療的ケアなどについて理解する。 ・退院後も引き続き医療や生活規制が必要な子どもの学習環境について理解する。 ・学校保健や生徒指導などの連携の必要性について理解する。 ・医師や看護師等の医療関係者との連携の方法等について理解する。			
授業の概要 特別支援学校教育要領・学習指導要領を基準として特別支援学校（病弱）において編成される教育課程の意義を理解するため、生きる力に加え病気や障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する力を育むことを理解する。また、教育課程の編成においては幼児、児童又は生徒の肢体不自由の状態や特性及び心身の発達の段階等並びに特別支援学校（病弱）の教育実践に即し、各教科等の教育内容を選定し組織し、必要な授業時数を定めることや効果的な指導のため、個別の指導計画を作成する必要性を理解する。さらに、自立活動における個別の指導計画の取り扱いや教科と自立活動の目標設定に至る手続きの違いを理解する。個別の指導計画については、カリキュラム・マネジメントの側面として、実施状況の評価を行い改善に繋げる必要性について理解する。			
授業計画（105分×7回） 第1回：病弱・身体虚弱とは（丹羽登） 第2回：病弱・身体虚弱教育の歴史（丹羽登） 第3回：病弱（身体虚弱を含む）の子どもの学習上又は生活上の困難（上野昌稔） 第4回：病弱教育の制度（上野昌稔） 第5回：多様な学びの場を前提とした多様な指導形態（上野昌稔） 第6回：病弱（身体虚弱を含む）の子どもの授業時数と単位の履修と修得（上野昌稔） 第7回：遠隔教育の方法・効果、及び遠隔教育による出席扱いと単位の履修と修得（上野昌稔）			
テキスト 特別支援学校病弱校長会編著「病気の子どもの教育必携」（ジアース教育新社）			
参考書・参考資料等 日本育療学会編著「標準「病弱児の教育」テキスト（ジアース教育新社） 文部科学省「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則等編」（開隆堂出版株式会社）			
学生に対する評価 日常の学習状況30%、講義内レポート30%、定期試験に代わるレポート40%			

授業科目名： 病弱教育Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 上野 昌稔、丹羽 登 担当形態： オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：病）		
授業のテーマ及び到達目標 病弱教育に関する法令を理解するとともに、病気の子どもの実態に応じた学習環境の整備や指導方法の工夫等を理解する。 ・入院中に学習することができる制度や手続きについて理解する。 ・病弱の特別支援学校における法令や教育課程編成方法、医療的ケアなどについて理解する。 ・退院後も引き続き医療や生活規制が必要な子どもの学習環境について理解する。 ・学校保健や生徒指導などとの連携の必要性について理解する。 ・医師や看護師等の医療関係者との連携の方法等について理解する。			
授業の概要 病弱（身体虚弱を含む）の幼児、児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階を踏まえた各教科等の指導における配慮事項について理解し、自立活動及び自立活動の指導と関連付けた具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。指導に当たっては、病気や障害の状態、特性及び心身の発達の段階等を踏まえ、学習環境に応じた学習効果を高めるために、間接体験や疑似体験、仮想体験を効果的に取り入れることを理解する。さらに指導の効果を高めるためのICT機器の使用を図るとともにこれらの要素を活用した学習指導案を作成し、指導を評価改善することの重要性を理解する。なお、指導の実際においては、心身に負担過重とならないように、適切な活動量や時間の設定、姿勢の変換や適切な休養の確保が必要なことも理解する。			
授業計画（105分×7回） 第1回：特別支援学校（病弱）における教育課程の編成（上野昌稔） 第2回：特別支援学校（病弱）における各教科の指導時の配慮事項（間接体験、疑似体験等の活用）（上野昌稔） 第3回：病弱（身体虚弱を含む）の子どもの自立活動（上野昌稔） 第4回：病弱（身体虚弱を含む）の子どもの合理的配慮とICT機器の活用（上野昌稔） 第5回：病弱（身体虚弱を含む）の子どもの教育支援計画、個別の指導計画jの作成・活用（上野昌稔） 第6回：具体的な指導計画の作成（学習指導案等の作成や指導の評価・指導のはじ改善）（上野昌稔） 第7回：病弱教育における現在の課題と展望（丹羽登）			
テキスト 特別支援学校病弱校長会編著「病気の子どもの教育必携」（ジアース教育新社）			
参考書・参考資料等 日本育療学会編著「標準「病弱児の教育」テキスト（ジアース教育新社） 文部科学省「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則等編」（開隆堂出版株式会社）			
学生に対する評価 日常の学習状況30%、講義内レポート30%、定期試験40%			

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：
知的障害教育総論	必修科目	2単位	田中 裕一
			担当形態：
			単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：知）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>知的障害教育の基礎的知識として、歴史・制度、学習指導要領改訂の基本方針、教育課程編成の考え方、知的障害の教科の各教科の目標及び主な内容並びに全体構造、各学部や各段階のつながり、自立活動の指導、教科と領域を合わせた指導の意味やその実践について理解を深めることを目的とする。</p> <p>知的障害児の特性及び心身の発達の段階に応じた教科等の指導の工夫や自立活動との関係とその指導を理解し、個別の指導計画・個別の教育支援計画を作成することができる。</p> <p>カリキュラム・マネジメント、ICT活用等の知的障害教育の今日的な課題について、学校現場で活用できる基礎的知識を修得することができる。</p>			
授業の概要			
<p>知的障害教育についての概要や教育内容・方法について理解する。知的障害教育とは何かの問題から定義づけ、歴史的経緯や発達段階や学校段階における教育のあり方を理解する。また、教育要領や学習指導要領に準拠し、教育課程において教科・領域別の指導や教科・領域を合わせた指導の場面における指導内容や方法について理解する。授業においては、グループワークやディスカッションを取り入れ、教育アセスメントを習得する。さらに、自立活動の意義を踏まえ、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、具体的な指導場面においてその適用を図ることができるようにする。</p>			
授業計画（105分×13回）			
<p>第1回：オリエンテーション、知的障害の定義と理解、知的障害教育の歴史と制度の変遷</p> <p>第2回：知的障害の特性、指導と支援の基本的な考え方</p> <p>第3回：知的障害のある子どもの教育課程編成の基本的な考え方（関係法令の理解、学習指導要領改訂の意義と教育課程の編成の手順）</p> <p>第4回：知的障害のある子どもの教育課程編成の基本的な考え方②（指導形態、指導と評価、カリキュラム・マネジメント）</p> <p>第5回：知的障害のある子どもの教育課程の実際①（教科等の指導と各段階のつながり、教科等を合わせた指導の基本的な考え方）</p> <p>第6回：知的障害のある子どもの教育課程の実際②（遊びの指導、生活単元学習、作業学習）</p> <p>第7回：知的障害のある子どもの自立活動の指導①（基本的な考え方、自立活動の内容）</p> <p>第8回：知的障害のある子どもの自立活動の指導②（自立活動の個別の指導計画の内容の取扱い）</p> <p>第9回：個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成と活用（関係機関との連携）</p> <p>第10回：知的障害のある子どものICT活用</p> <p>第11回：知的障害のある子どものキャリア教育</p> <p>第12回：特別支援学級における指導（教育課程と指導形態、交流及び共同学習）</p> <p>第13回：今後の知的障害教育のあり方</p>			
テキスト			
特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）（H30.3）			
特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）（H30.3）			
特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（H30.3）			
参考書・参考資料等			
特別支援学校学習指導要領解説 総則編（高等部）（H31.2）			
特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（高等部）（H31.2）			
特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（高等部）（H31.2）			

その他参考資料については、必要に応じて、講義内で配布、紹介する

学生に対する評価

小レポート（期間中に数回提出）30%、授業における振り返り20%、総合レポート50%

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：
肢体不自由教育総論	必修科目	2単位	上野 昌稔
			担当形態：
			単独
科目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：肢）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>肢体不自由教育の基礎的知識として、歴史・制度、学習指導要領改訂の基本方針、教育課程の原理と編成、自立活動の指導について理解を深めることを目的とする。</p> <p>肢体不自由児の特性に応じた教科等の指導の工夫や自立活動との関係とその指導を理解し、個別の指導計画・個別の教育支援計画を作成することができる。</p> <p>カリキュラム・マネジメント、ICT活用、医療的ケア等の肢体不自由教育の今日的な課題について、学校現場で活用できる基礎的知識を修得することができる。</p>			
授業の概要			
<p>肢体不自由教育についての概要や教育内容・方法について理解する。肢体不自由教育とは何かの問題から定義づけ、歴史的経緯や発達段階や学校段階における教育のあり方を理解する。また、教育要領や学習指導要領に準拠し、教育課程において教科・領域別の指導や教科・領域を合わせた指導の場面における指導内容や方法について理解する。授業においては、グループワークやディスカッションを取り入れ、教育アセスメントを習得する。さらに、肢体不自由の状態や特性を踏まえ体験的な学習を取り入れ、個別の支援計画や個別の教育指導計画を作成し、具体的な指導場面においてその適用を図ることができるようにする。</p>			
授業計画（105分×13回）			
<p>第1回：オリエンテーション、肢体不自由の定義と理解</p> <p>第2回：肢体不自由教育の歴史と制度の変遷</p> <p>第3回：特別支援学校における教育課程の原理と編成①（教育課程の定義と関係法令の理解）</p> <p>第4回：特別支援学校における教育課程の原理と編成②（学習指導要領改訂の意義と教育課程の編成）</p> <p>第5回：特別支援学校における教育課程の実際①（教科等の指導、教科等を合わせた指導）</p> <p>第6回：特別支援学校における教育課程の実際②（カリキュラム・マネジメントの充実と指導の実際）</p> <p>第7回：肢体不自由教育における自立活動の指導①（意義と指導の基本、自立活動の内容）</p> <p>第8回：肢体不自由教育における自立活動の指導②（自立活動の個別の指導計画の内容の取扱い）</p> <p>第9回：特別支援学校における教科等の指導と自立活動の関係</p> <p>第10回：個別の指導計画・個別の教育支援計画①（意義と作成概論）</p> <p>第11回：個別の指導計画・個別の教育支援計画②（作成の実際）</p> <p>第12回：ICT活用と医療的ケア（今日的課題の理解）</p> <p>第13回：これからの肢体不自由教育の課題</p>			
テキスト			
<p>特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）（H30.3）</p> <p>特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編（小学部・中学部）（H30.3）</p> <p>特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（H30.3）</p>			
参考書・参考資料等			
資料を提示配布する。			
学生に対する評価			
提出物・授業への取り組み（30%）と定期試験にかわるレポート（70%）で総合的に評価する。			

授業科目名： 病弱教育総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 丹羽 登 担当形態： 単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：病）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>（授業のテーマ） さまざまな病気の子どもの理解と適切な支援を修得し、病弱児への教育を学ぶ</p> <p>（到達目標）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の対象とする主な疾患と病弱・身体虚弱教育の概念について理解する。 ・病弱教育の歴史や現状から、病気の子どもの教育課題を理解する。 ・病弱教育の場や教育課程、自立活動の具体的な取り組みを修得する。 ・病気の子どもの復学支援・進学のための教育的支援を理解する。 ・病気の子どもや家族への対応や教育・医療・福祉等、関係機関の連携を理解する。 ・病気の子どもの心理と子どもを支える家族の心情を理解する。 			
<p>授業の概要</p> <p>病弱教育についての概要や教育内容・方法について小児医療の実際を踏まえて理解する。病弱教育とは何かの問題から定義づけ、歴史的経緯や発達段階や学校段階における教育のあり方を理解する。また、教育要領や学習指導要領に準拠し、教育課程において教科・領域別の指導や教科・領域を合わせた指導の場面における指導内容や方法について理解する。授業においては、グループワークやディスカッションを取り入れ、教育アセスメントを修得する。さらに、通級学級や院内学級の実践を踏まえ個別の支援計画や個別の教育指導計画を作成し、具体的な指導場面においてその適用を図ることができるようにする。</p>			
<p>授業計画（105分×13回）</p> <p>第1回：病弱教育の概念、歴史的変遷や制度について 第2回：多様な病気をもつ子どもの学びの場、教育形態について 第3回：病弱児の心理について 第4回：主な病気の概要と教育支援 第5回：教育課程の編成について 第6回：各教科の指導について 第7回：自立活動の指導について 第8回：病弱教育における情報化について 第9回：キャリア教育について 第10回：病弱児と医療的ケアについて 第11回：教育と医療・福祉等との連携 第12回：病弱児への復学支援の実際 第13回：病弱教育の今後の課題とターミナル期の教育保障</p>			
<p>テキスト</p> <p>適宜資料配布</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省初等中等教育局特別支援教育課（2021）「障害のある子供の支援の手引」（文部科学省ウェブサイトよりダウンロード） ・特別支援学校学習指導要領解説、総則編（平成30年） ・特別支援学校学習指導要領各教科編（平成30年） ・特別支援学校学習指導要領自立活動編（平成30年） ・教育支援資料 文部科学省（平成25年） ・国立特別支援教育総合研究所等発行「病気の子どもの理解のために」（冊子） 			

学生に対する評価

課題レポート70%、コミュニケーションペーパー30%

授業科目名： 発達障害児の心理・ 生理・病理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 瀬戸山 悠、高田 哲 担当形態： オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：発達）		
授業のテーマ及び到達目標 (授業テーマ) 特別支援教育の教員として必要な発達障害に関する基礎知識を理解し、発達と生活上の問題に対する支援方法について学ぶ。 (到達目標) ・発達障害者の基礎知識、心理、生理、病理について理解する。 ・発達障害者の生活上の問題に対する留意点と支援について理解する。			
授業の概要 限局性学習症、注意欠陥・多動症、自閉症スペクトラム等、発達障害のある幼児、児童又は生徒について、その要因となる脳機能に関わる病理面及び心理面や生理面の特徴を理解する。また、それらの相互作用並びに二次な障害について障害ごとの特性や配慮事項について具体例に基づきながら理解を進める。観察や検査を通して、一人一人の状態、感覚や認知及び行動の特性を把握することを理解するとともに、家庭や医療、福祉及び労働機関との連携についても理解する。			
授業計画（105分×7回） 第1回：発達障害とは（瀬戸山悠） 第2回：自閉症スペクトラム症とは（高田哲） 第3回：注意欠陥・多動症とは（高田哲） 第4回：限局性学習症とは（高田哲） 第5回：発達障害の健康問題と支援① 食事・肥満（瀬戸山悠） 第6回：発達障害の健康問題と支援② 睡眠（瀬戸山悠） 第7回：発達障害がある子どもの支援（瀬戸山悠）			
テキスト 適宜資料配布			
参考書・参考資料等 発達障害の子どもの心と行動がわかる本、田中康雄 監修、西東社。			
学生に対する評価 レポート70%、コミュニケーションペーパー30%			

授業科目名： 発達障害者教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 田中 裕一 担当形態： 単独
科目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：発達）		
授業のテーマ及び到達目標 観察や検査を通して、学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症の状態、感覚や認知及び行動の特性を把握することを理解する。 家庭や医療、福祉及び労働機関との連携の重要性について理解する。			
授業の概要 特別支援学校のセンター的機能を果たすために、教育要領や学習指導要領を基準として発達障害のある幼児、児童又は生徒に対する教育課程を編成するため、その意義やカリキュラム・マネジメントについて理解する。教育課程の編成にあたっては、通常の学級の教育課程を基盤として、通級による指導や特別支援学校における特別の教育課程が有する意義を理解する。学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症の状態や特性及び心身の発達の段階、学校の教育課程の編成方針を考慮する。なお、各教科等の指導内容においては、ICT活用を含め個に応じた指導が必要なこと、自立活動における個別の指導計画の作成と取り扱いについて理解し、評価・改善ができるようにする。			
授業計画（105分×7回） 第1回：発達障害のある子どもに対する指導・支援の基本的な考え方 第2回：LDのある子どもの困難と教育課程・教育的配慮 第3回：ADHDのある子どもの困難と教育課程・教育的配慮 第4回：自閉症のある子どもの困難と教育課程・教育的配慮 第5回：発達障害のある子どもの併存症並びに二次的な障害とその対応の基本 第6回：特別支援学級、通級指導教室における発達障害のある子どもの指導 第7回：学校と家庭、関係機関との連携の基本的な考え方と特別支援教育コーディネーターの役割			
テキスト 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（H30.3）			
参考書・参考資料等 特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（高等部）（H31.2） LDの子が見つけたこんな勉強法（野口晃菜・田中裕一編著、合同出版R5.9） 通常学級の発達障害児の「学び」を、どう保障するか（田中裕一、小学館R4.2） その他参考資料については、必要に応じて、講義内で配布、紹介する			
学生に対する評価 小レポート（期間中に数回提出）30%、授業における振り返り20%、総合レポート50%			

授業科目名： 重複障害者教育総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 上野 昌稔
			担当形態： 単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：重複） ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：重複）		
授業のテーマ及び到達目標 特別支援学校等に在籍する重度重複障害児を心理、生理及び病理の観点から捉え、実態把握、教育課程・指導法に関する基礎知識を習得する。重度障害者等に関する教育課程の取り扱いの概要と自立活動を主とした教育課程について説明することができる。重度重複障害教育における個別の指導計画の作成、授業の実施、評価・改善についての理解を深め、カリキュラム・マネジメントの充実の必要性を理解することができる。			
授業の概要 幼児、児童又は生徒の重複障害の状態や特性及び心身の発達の段階等について心理、生理及び病理の観点から理解する。さらに、特別支援学校学習指導要領に規定されている「重複障害者等に関する教育課程の取り扱い」の意義や各規定の適用を判断する際の基本的な考え方を理解する。特別支援学校の自立活動を中心とした教育実践に即した教育課程の編成の方法と個別の指導計画の実施と評価、改善方法の基本を習得し、カリキュラム・マネジメントの基本的な考え方とその重要性を理解する。			
授業計画（105分×7回） 第1回：重度重複障害の概念と生理・病理学的特徴 第2回：重度重複障害児の心理学的特徴と実態把握、実態把握の基本的姿勢と具体的方法 第3回：学習指導要領：重複障害者等に関する教育課程の取り扱い（各教科の目標設定に至る手続き） 第4回：自立活動を主とした教育課程（自立活動の目標設定に至る手続きと具体的な実践事例と課題） 第5回：重度重複障害教育における個別の指導計画作成の手順 第6回：個別の指導計画に基づく授業実施、評価・改善（事例研究） 第7回：事例研究を通じたカリキュラム・マネジメントによる教育課程の充実の必要性理解			
テキスト 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）（H30.3） 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）（H30.3） 手厚い支援を必要としている子どものための情報パッケージ「ぱれっと（PALETTE）」ー子どもが主体となる教育計画と実践をめざしてー（株）ジアース教育新社 ISBN978-4-86371-372-7 C 3037（H28.9）			
参考書・参考資料等 資料を提示配布する。			
学生に対する評価 提出物・授業への取り組み（30%）と定期試験にかわるレポート（70%）で総合的に評価する。			

授業科目名： 視覚障害者教育総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 青木 隆一 担当形態： 単独
科目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：視） ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：視）		
授業のテーマ及び到達目標 視覚障害教育の概要と歴史、視機能及び眼疾患、見えない・見えにくいことによる困難さを補う指導の手立てについて理解を深める。 (1) 視覚障害教育の歴史を踏まえながら現在の視覚障害教育の概要を説明できる。 (2) 視機能と眼疾患の理解を基に、様々な視覚障害を補って効果的に学習を進める手立てと教材教具、補助具の活用について説明できる。 (3) 視覚に障害のある幼児、児童及び生徒の自立活動の指導について個別の指導計画に基づいて説明できる。			
授業の概要 視覚障害教育についての概要や教育内容・方法について理解する。視覚障害者教育とは何かの問題から定義づけ、歴史的経緯を理解する。また、視機能の低下の要因となる病理面と心理面及び生理面の特徴並びに相互作用について理解する。一人一人の視知覚や触知覚及び認知の特性を把握する。さらに、特別支援学校（視覚障害）の教育実践に即した教育課程の編成、自立活動及び自立活動の指導と関連付けた具体的な指導場面を理解する。個別の指導計画の評価と改善を行いカリキュラム・マネジメントに基づく教育課程の管理や、家庭や医療機関との連携の重要性について理解する。			
授業計画（105分×7回） 第1回：【視覚障害の理解】視覚障害の定義、見えないことと見えにくいことの意味、主な眼疾患、視機能検査 第2回：【視覚障害教育の概要】視覚障害教育の歴史、現状と課題、制度、学習指導要領を踏まえた教育課程の編成 第3回：【視覚障害教育の概要】盲学校での教育（教育相談と早期教育、重複障害教育、職業教育） 第4回：【盲児に対する指導と配慮】歩行指導、動作・スポーツ、日常生活動作 第5回：【盲児に対する指導と配慮】点字指導、各種教材、視覚補助具、情報機器、配慮事項 第6回：【弱視児に対する指導と配慮】拡大教材、デジタル教材、光学補助具、配慮事項 第7回：【視覚障害教育における自立活動】個別の指導計画、学習上又は生活上の困難への対応例 定期試験			
テキスト 宍戸和成・古川勝也・徳永豊（監修）、小林秀之・澤田真弓（編）『特別支援教育のエッセンス 視覚障害教育の基本と実践』慶応義塾大学出版会			
参考書・参考資料等 特別支援学校幼稚部教育要領・小学部中学部学習指導要領・高等部学習指導要領 ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部） ・特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部） ・文部科学省著作点字教科書編集資料			
学生に対する評価 ・学修内容について理解・納得したこと、さらに学びを深めたいことを論述する。（レポート） ・視覚障害のある幼児・児童・生徒への支援の手立てを自分の考えで論述する。（定期試験） 毎授業で提出する小レポート35%、定期試験65%			

授業科目名： 聴覚障害者教育総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 西山 健 担当形態： 単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：聴） ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：聴）		
授業のテーマ及び到達目標 聴覚障害がどのような障害であるのかを理解し、聴覚に障害のある幼児児童生徒の教育・支援に必要な基礎的・基本的な知識を獲得し、聴覚に障害のある幼児児童生徒の障害の状態や特性および発達の様相に応じた教育・支援の実践に結びつけることができる技能を身につける。			
授業の概要 聴覚障害がどのような障害であるのかを心理・生理・病理の観点から捉え、聴覚障害が心身の発達に与える影響について理解する。特別支援学校（聴覚障害）における教育課程の編成およびカリキュラム・マネジメントの意義について把握するとともに、個別の指導計画に基づく各教科の指導および自立活動の実践と結びつけて理解する。また、個々の幼児児童生徒の障害の特性、発達の様相、コミュニケーション方法などに応じた具体的な指導法について学ぶ。さらに、聴覚障害教育における現代的課題である人工内耳装用児への支援、障害理解教育、保護者支援などについても理解を深める。			
授業計画（105分×7回） 第1回：聴覚障害とは－心理・生理・病理の観点からみた特徴と相互作用－ 第2回：聴覚障害教育の歴史と現状 第3回：聴覚障害教育における教育課程の編成とカリキュラム・マネジメントの意義 第4回：聴覚障害教育における教育課程の編成とカリキュラム・マネジメントの実際 第5回：聴覚障害教育における具体的指導法（1）障害の状態・特性および発達の様相に応じた指導 第6回：聴覚障害教育における具体的指導法（2）コミュニケーション方法に応じた指導 第7回：聴覚障害教育における今日的課題（人工内耳、障害理解、保護者支援など）			
テキスト 毎回授業で配付するハンドアウト			
参考書・参考資料等 守屋国光（編）2015『特別支援教育総論－歴史、心理・生理・病理、教育課程・指導法、検査法－』風間書房 西山 健ほか（編）2018『特別支援教育の授業の理論と実践 通常学校編－合理的配慮からユニバーサルデザインの授業づくりへ－』あいり出版 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）（H30.3）			
学生に対する評価 小レポートを含む授業への取り組み（30%）と全体レポート（70%）の総合評価			